

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒108-8001  
 住 所 東京都港区芝五丁目7番1号  
 氏 名 日本電気株式会社  
 代表取締役 執行役員社長 遠藤 信博 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本電気株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市中原区下沼部1753		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	30	情報通信機械器具製造業
主たる事業 の内容	無線通信機械器具製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		30,608 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	ものづくり統括本部 工務統括センター 玉川工務
		所在地	神奈川県川崎市中原区下沼部1753
		電話番号	044-435-1045
		FAX番号	044-435-1783
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成 25年度 ～ 平成 27年度 (報告年度 平成26年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取り組みは下記ホームページにて公表をしています。 <a href="http://www.nec.co.jp/eco/ja/issue/warming/">http://www.nec.co.jp/eco/ja/issue/warming/</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

#### 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

##### (1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

###### ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 63,398 t-CO <sub>2</sub> (調) 63,295	(実) 60,453 t-CO <sub>2</sub> (調) 60,354	(実) 57,725 t-CO <sub>2</sub> (調) 57,631	(実) t-CO <sub>2</sub> (調)	(実) 63,456 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 4.6 % (調) 4.6	(実) 8.9 % (調) 8.9	(実) % (調)	(実) -0.1 %

###### イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	有効床面積		単位	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出原単位等の値	0.2655	0.2742	0.2544		0.2658
削減率		-3.3 %	4.2 %	%	-0.1 %

###### ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	<p>平成25年度は節電により玉川事業場では継続的節電強化により電力量が減少した。*****では引き続き高密度負荷型の新規サーバーの導入により電力量が増加した。合計では基準年度に比べ、CO<sub>2</sub>換算値で約2,945 tの減少となった。 原単位では、使用面積が減少したため、基準年度に比べ、3.3%の増加となった。</p> <p>原単位 CO<sub>2</sub>発生量 60,453 t-CO<sub>2</sub> ÷ 220,469m<sup>2</sup> = 0.2742 t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup></p>
第2年度	<p>平成26年度は節電により玉川事業場では継続的節電強化とルネサスエレクトロニクス社撤退により電力量が減少した。*****では引き続き高密度負荷型の新規サーバーの導入により電力量が増加した。合計では基準年度に比べ、CO<sub>2</sub>換算値で約5,673 tの減少となった。 原単位では、使用面積は減少したが、基準年度に比べ、4.2%の減少となった。</p> <p>原単位 CO<sub>2</sub>発生量 57,725 t-CO<sub>2</sub> ÷ 226,929m<sup>2</sup> = 0.2544 t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup></p>
第3年度	

##### (2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

- ① ITソリューションでCO<sub>2</sub>削減に貢献する。  
970万トン削減 / 1,500万トン削減 (実績: 平成26年度までの累計 / 目標: 平成29年度まで)
- ② 製品のエネルギー効率の改善を行う。  
75%削減 / 80%削減 (実績: 平成26年度まで / 目標: 平成29年度まで)  
※ (平成17年度全製品の加重平均比)

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<p>■組織体制 全社を統括する環境経営推進会議の下にBU毎の環境経営委員会を設け、又、事業場ごとに地区省エネルギー委員会で事業部と協働した省エネ活動ができるように体制を構築している。</p> <p>■設備の管理 設備ごとに省エネ法による管理標準を作成し、省エネ法・節電方針等の改訂に合わせ、見直しを実施。</p> <p>■設備の更新及び運用改善 ◆更新 設備更新合わせて省エネルギーの検討を実施 9号館スマートビル化事業に伴う高効率機器の導入 ・ターボ冷凍機更新(平成25年度) ・外気冷房の導入(平成25年度) ・スマート分電盤の導入(平成25年度) ・高効率照明器具の導入(平成25~26年度) ・BEMS・エネルギーシステム導入(平成25年度) ・蓄電池の導入(平成25年度) ・窓ガラス断熱性能向上対策(平成26年度) ・省エネルギーの導入(平成26年度) ・高効率受電設備更新(平成26年度) ・風力・太陽光発電・マイクロ水力発電導入(平成26年度) ◆運用改善 省エネパトロールを行い、施策の発掘を実施</p> <p>■従業員の啓発 毎年省エネ講演会・省エネ施設見学会を開催し、従業員の省エネ意識向上に努めている。</p>
	第1年度	<p>■組織体制 地区省エネルギー委員会による事業部と協働した省エネ活動の実施。</p> <p>■設備の管理 設備ごとに省エネ法による管理標準を作成し、省エネ法・節電方針等の改訂に合わせ、6月に見直しを実施。</p> <p>■設備の更新及び運用改善 ◆更新 設備更新合わせて省エネルギーの検討を実施 9号館スマートビル化事業に伴う高効率機器の導入 ・ターボ冷凍機更新(平成25年度) ・外気冷房の導入(平成25年度) ・スマート分電盤の導入(平成25年度) ・高効率照明器具の導入(平成25~26年度) ・BEMS・エネルギーシステム導入(平成25年度) ・蓄電池の導入(平成25年度) ◆運用改善 省エネパトロールを行い、施策の発掘を実施</p> <p>■従業員の啓発 毎年省エネ講演会・省エネ施設見学会を開催</p>
	第2年度	<p>■組織体制 全社を統括する環境経営推進会議の下にBU毎の環境経営委員会を設け、又、事業場ごとに地区省エネルギー委員会で事業部と協働した省エネ活動ができるように体制を構築している。</p> <p>■設備の管理 設備ごとに省エネ法による管理標準を作成し、省エネ法・節電方針等の改訂に合わせ、見直しを実施。</p> <p>■設備の更新及び運用改善 ◆更新 設備更新合わせて省エネルギーの検討を実施 ◆運用改善 省エネパトロールを行い、施策の発掘を実施 ・照明設備の停止・間引きの実施 ・照明紐スイッチの追加</p> <p>■従業員の啓発 毎年省エネ講演会・省エネ施設見学会を開催し、従業員の省エネ意識向上に努めている。</p>

	第3年度	
3 自動車等 号該当者等 (第	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	廃棄物総発生量の1% (基準年度1093t) /年を削減し、焼却場から発生するCO <sub>2</sub> を削減する。※目標低減削減 (平成27年度) 88.6t (32t/年 × 2.77t-CO <sub>2</sub> /t (廃プラ燃焼換算))
第1年度	基準年度と比較し、フロア模様替え工事 (什器等の入替) に伴い廃棄物が増加したため、廃棄物排出量が7.3%増加した。
第2年度	基準年度と比較し、ルネサスエレクトロニクス社の撤退に伴い廃棄物が減少したため、廃棄物排出量が3.2%減少した。
第3年度	

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>■エコシンボル制度の認定制度</li> <li>■機器の外部筐体用プラスチックへのエコプラスチック使用拡大</li> <li>■エネパルPC開発 (PCの自動省エネソフト)</li> <li>■グリーン調達の実施。</li> <li>■資源再利用化の促進。</li> <li>■紙購入量 (コピー、EDP用紙) の削減。</li> <li>■回収した使用済み製品の資源再利用化率</li> </ul>
第1年度	別紙による
第2年度	別紙による
第3年度	

様式第2号 (第5面)

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況の別紙

[第1年度に実施した施策]

□グリーン設計

- ・廃棄物の排出を抑え、循環型社会に貢献するために、リサイクルしやすい素材をできるだけたくさん使うとともに、リサイクルされた材料の活用も積極的に進めています。

□エコシンボル制度の認定制度

- ・環境配慮型製品の開発促進と製品に関する環境情報をお客さまへ積極的に提供することを目的として、1998年12月にスタートしたNEC社内制度。

□バイオプラスチックの製品への適用推進

- ・再生可能な資源を有効利用した環境配慮型プラスチックを製品へ積極的な適用を推進している。

□グリーン調達の実施

- ・環境配慮型製品の開発促進、設計・開発者の意識啓発を目的に、環境への影響が少ない資材を優先的に調達すること。

□資源再利用化の促進

- ・お客様から使用済みとなったコンピュータなどの情報通信機器を回収し、再利用、再資源化しています。

□紙購入量(コピー、EDP用紙)の削減

- ・電子プレゼンテーションの活用や、コピー機・プリンターの近くに、使用量削減に向けたポスターなどを掲示することで、紙の使用量の削減を推進しています。

[第2年度に実施した施策]

□グリーン設計

- ・廃棄物の排出を抑え、循環型社会に貢献するために、リサイクルしやすい素材をできるだけたくさん使うとともに、リサイクルされた材料の活用も積極的に進めています。

□エコシンボル制度の認定制度

- ・環境配慮型製品の開発促進と製品に関する環境情報をお客さまへ積極的に提供することを目的として、1998年12月にスタートしたNEC社内制度。

□バイオプラスチックの製品への適用推進

- ・再生可能な資源を有効利用した環境配慮型プラスチックを製品へ積極的な適用を推進している。

□グリーン調達の実施

- ・環境配慮型製品の開発促進、設計・開発者の意識啓発を目的に、環境への影響が少ない資材を優先的に調達すること。

□資源再利用化の促進

- ・お客様から使用済みとなったコンピュータなどの情報通信機器を回収し、再利用、再資源化しています。

□紙購入量(コピー、EDP用紙)の削減

- ・電子プレゼンテーションの活用や、コピー機・プリンターの近くに、使用量削減に向けたポスターなどを掲示することで、紙の使用量の削減を推進しています。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績 (排出係数反映)

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	63,849	t-CO <sub>2</sub>
(調)	63,013	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k<sub>l</sub> 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
玉川事業場	神奈川県川崎市中原区下沼部1753	3013	無線通信機械器具製造業	51,855 t-CO <sub>2</sub>
*****	*****	3921	情報処理サービス業	11,883 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 以上 1,500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k <sub>l</sub> 未満	
300~400k <sub>l</sub> 未満	
200~300k <sub>l</sub> 未満	
100~200k <sub>l</sub> 未満	
100k <sub>l</sub> 未満	1

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--